

一般社団法人 SHIPひきこもりと共生社会を考えるネットワーク主催

「SHIP! SPACE」講座

当事者・家族と、ともに考える、学び合う、対話する、実践する、一步を応援

ハイブリッド講座 第6回 (全12回シリーズ)

ひきこもる人の 住まいと命と人権を考える

★キーワード★
引き出し/押し出し/説得

第1部

住まい、人権についての 現在と未来

パネルディスカッション・質疑応答

第2部

私たちの意思決定、権利擁護を 考える ～本人のことを本人抜きで決めない～

親亡き後、あるいは親に万一のことがあったとき、ひきこもり状態にある人は「明日からどこで暮らすのか」という切実な課題に直面する。しかし、過去には「自立支援」の名のもとに、本人の意思を置き去りにした「引き出す支援」「押し出す支援」が行われてきた現実がある。背景には、「就労」以外の選択肢を示せない相談窓口への失望から、相談そのものを諦めてしまった当事者や家族の存在がある。

厚生労働省が2025年に改訂した「ひきこもり支援ハンドブック」は、「**自立から自律へ**」を掲げ、社会参加や就労のみをゴールとせず、本人が自ら生き方を選択できるよう共に考える支援を基本理念としている。しかし現実には、親亡き後に本人の意思に反して施設入所を勧められた事例もある。施設を離れた後は住まいや所持金を失い、**福祉制度の狭間に取り残される**。さらに、集団生活による心的外傷(PTSD等)や対人不信、家族関係の断絶により、**孤立を余儀なくされる**場合も少なくない。制度も人も頼れる人のない本人たちは、一体どこでどのように生きていけばいいのか。自分が生きる場所を誰が決めるのか。住まいは単なる生活の場ではなく、命と尊厳、人権の基盤である。

本シンポジウムでは、「福祉につながっていないくても、受け皿がなくても、**一人ひとりに適した支援**を考えることが行政の義務である」という理念を出発点に、制度の狭間に置かれた人々の住まいと人権、そして本人の意思と尊厳を守るために地域社会が果たすべき役割について考える。



SHIP! 第2号
特集「生きづらさ」を
生み出す正体



かとう
加藤くみ

中井町議会議員
養育里親「里親家庭のあすを考える会」事務局

事例紹介: 住まいを失った当事者の声とともに



たけはら ゆりこ
武原由里子

彦根市議会議員

施設を受け入れる地域のあり方とは?



むたみつ お
牟田光生

NPO法人教育研究所理事長、
NPO法人共同生活型自立支援機構 理事

共同生活型支援の立場から
～利用者の声とともに～



はやしきょうこ
林恭子

一般社団法人ひきこもりUX会議代表理事

ひきこもり当事者が望む支援と住まい
～共同生活型支援について～



ひばな ちかこ
日花睦子

KHJ全国ひきこもり家族会連合会 共同代表

親が望む住まいサポート



もちつき ひろむ
望月宣武

日本羅針盤(ニッポンコンパス)法律事務所
弁護士

人権意識と住まい ～法的立場から～



いけ がみ まさき
池上正樹

ジャーナリスト・
SHIP! 共同代表

コーディネーター



うえだ りか
上田理香

SHIP! 共同代表

9月15日(火)

18:00

～

20:30

本講座はリアル会場とオンラインの
ハイブリッド開催です(会場は「結・しぶや」詳細は裏面)
アーカイブ配信有 9月00日から配信

受講費

ひきこもり・生きづらさ当事者、経験者

1回 1,500円(税込1,650円)

支援者・家族・一般

1回 3,500円(税込3,850円)

SHIP! SPACE 講座は、年間全12回。
当事者フリーパス・会員フリーパス割引、
団体割引があります。詳細は
チラシ裏面・公式サイトをご覧ください。

【お問い合わせ】

一般社団法人 SHIPひきこもりと共生社会を考えるネットワーク

上田理香(コーディネーター、SHIP 共同代表) 池上正樹(コメンテーター、SHIP 共同代表)

<https://shiphiki>

SHIP! ひきこもり

お申込、
詳細はコチラ ▶

